

農業の新しい技術

No.555 (平成17年8月)
分類コード 01-09
熊本県農政部

カンキツ新品種「肥のあすか」の特性

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹研究室
担当者：坂西 英

研究のねらい

11月から出荷が始まる本県産「興津早生」は、成熟期に達していないことから、着色・食味不足が指摘されている。このため、11月上旬に完全着色し、高品質で食味が良く、栽培しやすい早生温州を育成する。

研究の成果

< 来 歴 >

「肥のあすか」は、1981年に「肥後早生」を種子親に「ミネオラ」を交配し、胚分離・培養を行って育成した珠心胚実生変異である。本系統の特徴は以下のとおりである。

< 特 性 >

1. 樹姿は中間型で、樹勢はやや強い(表1)。
2. 葉の大きさ、春梢の長さは、「興津早生」と同様であるが、トゲが若干発生する(表1)。
3. 果実形態は「興津早生」と同様であるが、果汁成分は糖度は同程度で、クエン酸がやや低い。また、じょうのう膜が薄く食味は良好である(表2)。
4. 着色は「興津早生」より1週間程度早く、果皮色が濃い(表2、図1)。

以上のことから、「肥のあすか」は、着色が早く、食味が良いため11月上旬から出荷可能で、「興津早生」と同様に樹勢が強いため、栽培しやすい早生温州として期待できる。

普及上の留意点

1. 「肥のあすか」は、県内の温州ミカン栽培地域において、温暖で日照条件が良く排水良好な園に適する。
2. 結果期に至るまで、葉数を確保し、適正な樹勢を維持することが必要である。
3. ウイルス・ウイロイド対策として、高接ぎ樹からの穂木採取は行わない。
4. 既存早生温州の更新用とし、平成22年に栽培面積150haを目標に産地化をすすめる。

[具体的データ]

表1 「肥のあすか」の樹体、葉、枝梢の形態 (2001年)

品種名	樹姿	樹勢	春葉				春梢			
			葉身長	葉幅	葉柄長	葉面積	基部径	長さ	節間長	トゲ ^{a)} 数
			cm	cm	cm	cm ²	mm	cm	cm	本
肥のあすか	中間	やや強	10.1	4.3	1.69	28.5	3.9	16.8	1.9	0.43
興津早生	中間	やや強	10.4	4.3	1.68	28.5	3.7	17.2	1.8	0.00

注) a) トゲ^{a)}数は春梢1本あたりのトゲ^{a)}の本数。

表2 「肥のあすか」の果実形態及び果汁成分

品種名	平均果重	果実横径	果形指数	果肉歩合	果皮		果汁成分	
					着色歩合	果皮色 ^{a)}	糖度(Brix)	クエン酸含量
	g	cm		%	分			g/100ml
肥のあすか	122.3	6.8	126	80.7	9.8	7.1	11.2	0.81
興津早生	119.6	6.4	125	81.3	9.4	6.6	11.5	0.83

注) 調査日は2001, 2003, 2004年の11月1日時点。シートマルチを8月中旬に実施。

a) 旧農林水産省果樹試験場作成のカラーチャートを用い、果頂部の最も着色が進んでいる位置を測定。

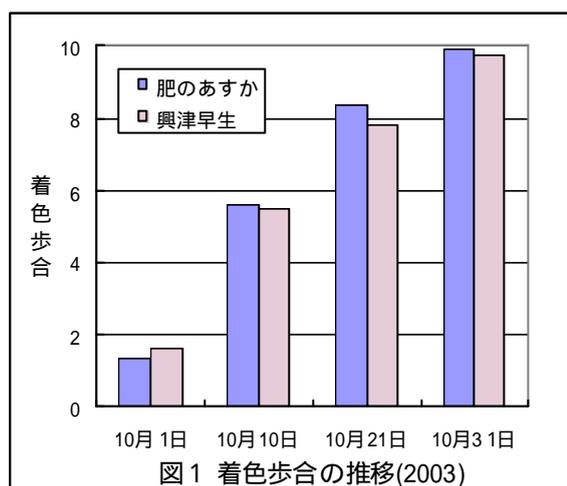


写真1 「肥のあすか」の着果状況



写真2 「肥のあすか」果実5方向